

* 研究授業からの学び *

R4.12.5

No.3

文責 新玉

令和4年 10月5日(水)
西土佐小学校 第2学年 生活科 小松 未歩 教諭
単元名 「おもちゃ横丁をひらいて、じぶんも みんなも たのしもう」全12時間
単元1 「うごく うごく わたしのおもちゃ」(12時間)

<単元でつきたい力>

- ・身近にあるものを使って、遊びやおもちゃを作る面白さや自然の不思議さに気付く。【知識及び技能の基礎】
- ・身近にあるものを使って、おもちゃがよりよく動くように改良したり、遊び方を変えたりなど、工夫しておもちゃや遊びを作る。【思考力、判断力、表現力等の基礎】
- ・身近な自然や身近にあるものを使って、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

本時の目標

様々な遊び方を試しながら、ルールや遊び方を工夫するとみんなが楽しく遊べるようになることに気づき、みんなにより楽しく遊べるように遊び方を改良している。

本時の評価規準

さまざまな遊び方を試しながら、みんなにより楽しく遊べるように、遊び方を改良している。【思】

本時の情報活用能力

自分と相手の考えを整理していく。

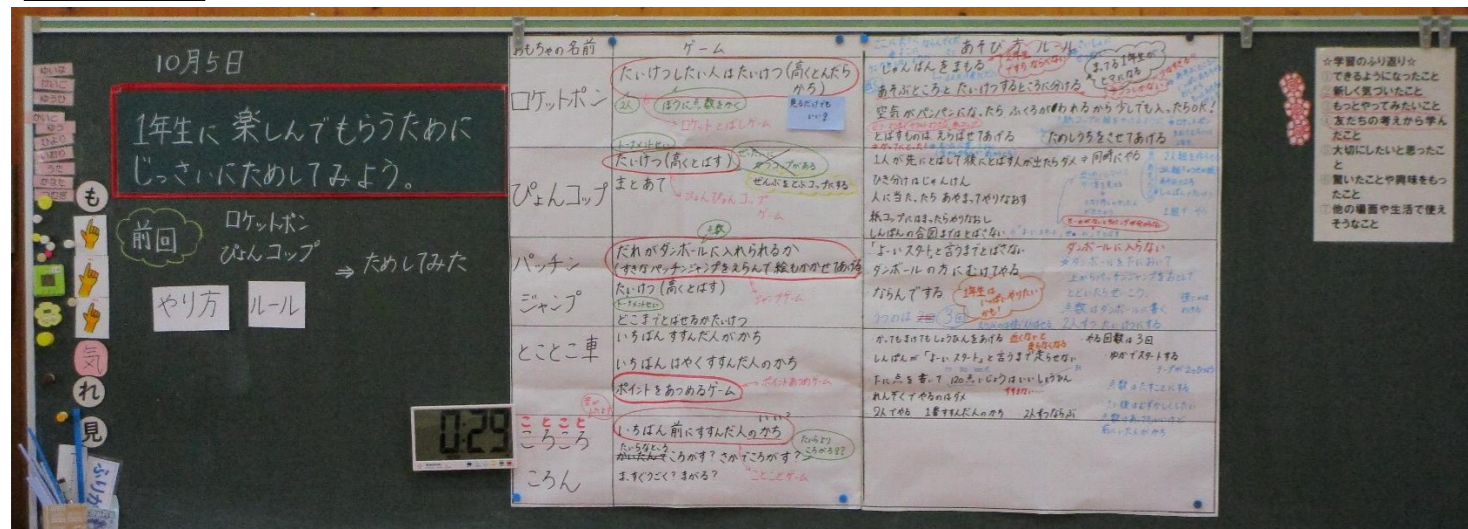
本時の授業風景

ぼくたちは、作ったおもちゃが、どこまで転ぶか競争したら、1年生が楽しく遊ぶと思いました。



おもちゃが転ぶ距離を比べるのはいいけど、ぼくのおもちゃを動かした時に、あまり遠くまでは転ばなかったから、1メートル20センチメートルは転がらないと思います。

本時の板書



研究協議より(抜粋)

授業者より

- 自分たちが作ったおもちゃを使って1年生に遊んでもらうときに、どうすれば楽しんでもらえるかを考えることを目指した。
- 子どもたち同士で活発に対話することができた。
- 子どもたちにもっとまかせるようにすればよかった。
- 授業の展開に必要なだけつづやきをひろいすぎてしまっていた。

参観者より

- 「1年生に楽しんでもらう」という相手意識・目的意識を適宜確認できていた。
- 自分たちで事前に決めたことをもとに、自分の考えを述べるできていた。
- 他の遊びの工夫と比べて、その遊びの工夫を考えていく姿が見られた。
- 子どものつづやきを、子ども同士で広げていけたらいい。
- 実際に遊びながら、改善点を考えることは難しかったのではないかな。
- 相手意識をもたせることが大事。
- 「1年生に分かる」という課題意識が弱かった。
- 子どもが自分たちで課題をつかんで学習を進められるよう、子どもを鍛えることが大切。
- 「やりたいことをやる」と「主体的な活動」の違いが大事。

指導主事より

- ・こんな子どもにしたい!という具体的なイメージを教師がしっかりと持ち、毎時間活動できていた。
- ・どんな手立て・活動・展開が必要か、しっかりと計画を考えていた。
- ・子ども自身でめあてを持ち、見通しを持っていた。
- ・つかませたい、意識させたいことにつながるような発問ができていた。
- ・表にまとめた板書を見て、比較しながら考えることができていた。
- ・教師が、どこで出るのか、どこまで子どもにまかせるのか、俯瞰して見守る時間も必要。
- ・相手意識、目的意識を教師が言うのではなく、子ども自ら意識できることが大事。何のために話し合っているのか、活動のよさを子どもに気づかせたい。
- ・子どもにまかせてみることで、子どものつづやきを生かした授業にしたい。

授業者のリフレクションより

- ・子どもの話し合う時間を優先するあまり、タイムマネジメントができていなかった。
- ・教師が子どもの話し合いに介入しすぎており、子ども達のつづやきを活かすことができなかった。
- ・子ども達の中で、「1年生を楽しませたい」という思いが強くなりすぎるあまり、「1年生にとってどんなルールが必要か」「1年生に分かりやすいか」という課題意識が弱くなってしまった。

☆これから取り組んでいきたいこと

- * 子ども達のつづやきをつなげながら、子ども達同士で授業が進められるようにする。
- * 目的意識と相手意識をしっかりと持つことができるように、課題を子ども自身のものにする。
- * 話し合いや振り返りの時間を十分に取るようにする。
- * 何を話し合わなければならないのか、自分達で考えられるようにする。